



地球研・地下プロ会議

日時: 2007年5月22日(火) 13:00 - 16:00

場所: ホテルニューオータニ幕張・桜の間

会議内容

- (1) 各班の進捗状況
嶋田・福田・山野・小野寺・谷口智(吉越代理)・
田中(金子代理): 各班ppt10分程度の発表
- (2) GISグループ進行状況(山下・梅沢)
- (3) 熊本国内会議11月19 - 21日
- (4) STOTEN調整
- (5) インドネシア12月4 - 8日: Int. Symp.+ 国際WS(梅沢)
- (6) HydroChange2008の準備状況
- (7) 本年度現地調査の調整
- (8) 地球研所内発表会、中間評価
- (9) その他 (予算執行・調査・成果等の新ルール含む)

(1) 各班

- 水(嶋田)
- 重力(福田)
- 熱(山野)
- 物質(小野寺)
- 都市地理(谷口智(吉越代理))
- 社会經濟(田中(金子代理))

(2) GIS

1. GISワーキンググループのこれまでの展開

- 2006年11月：PJ全体でGISの展開の提案 ・ GIS_WGの発足
- 2007年1月：PJ全体でGIS展開を加速させていく方針確認
- 2007年3月：第1回GISミーティング @ RIHN
- 2007年5月：GIS臨時ミーティング @ 酪農学園大

2. 現時点での方針概要

---- 作業優先事項の整理

(A: 7都市土地利用図・人口データ・都市/上下水道)

(B: 地下水位・地盤沈下・塩水化/汚染・気温/地温)

(C: 時系列変化のない地質図、地形、流域圏[地下・地表])

---- 作業の分担と予算

3. 最終的なアウトプットのイメージ

- ブラウザベースの公開 + 特集号(予定)

(3) 全体会議@熊本について

この1年間の成果発表と課題についての発表と議論

ただし、2週間後に控える国際Workshopを見据えて下記の点で修正

暫定案

- 国際Workshopの議事進行構成を意識しての進行を行う。
(発表者は各グループから3人?程度に絞り、まとめた発表を行う?)
(GIS展開の説明や宗教関連のサブピックも盛り込む)
- PPTファイルの作成時に、重要なページについては英語表記を交えて作成し、ノートの箇所に英語での解説を載せておくことが望ましい。
- 会議終了後、適宜修正や統合を試みて、国際Workshopの事前資料を作成し、地球研で編集後、カウンターパートに送付する。
- 会議に参加できない方々にも、上記に沿った準備をしていただく。

(4) STOTEN

- Special issue (SI) for Science of the Total Environment (STOTEN)
- (1) **July 1, 2007**: submit final title and authors as well as 3-4 potential reviewer's names and contact information
 - (2) **August 30, 2007**: submit manuscripts (manuscripts received after that date would be considered as a regular submission to STOTEN, not part of the SI). Please also note that all non-native English speaking authors must ensure that their papers have been edited for English before submission. (提出前に必ずネイティブチェック)
 - (3) December 15, 2007: complete 1st review
 - (4) March 2008: receive revisions
 - (5) June 2008: 2nd revisions if necessary; final proofing/editing by quest editors
 - (6) October 2008: submit final papers to STOTEN
 - (7) December 2008 publication

Guest editors:

M. Taniguchi, W.C. Burnett & G. Ness

1 Overview Paper, 18 Full Papers

Overview papers

(1) **Taniguchi M. Burnett W.C., Ness G.**: Development stage of the city and subsurface environmental problems

Original articles

(1) **Jago-on K. A.B.** et al.: Defining Subsurface Environmental Issues: An Attempt at DPSIR Model Application

(2) **Yoshikoshi** et al: Changes of the hydrological environment accompanying the urban development and its influences on the subsurface.

(3) **Siringan F.** et al.: Groundwater overuse and its consequences in Metro Manila, Philippines

(4) **Wattayakorn** et al.: Nitrogen inputs via rainfall in Bangkok, Thailand

(5) **Hayashi T.** et al.: Effect of urbanization to the regional groundwater flow system in the case of the groundwater aquifer of Tokyo and its surrounding area

(6) **Fukuda Y.** et al: Detection of regional land water mass variations in Indochina Peninsula using GRACE satellite gravity data

(7) Nakano T. et al.: Human impacts on the quality of river water and groundwater in Japan

(8) **Onodera S.** et al: Evaluations of the contaminant loads through subsurface environment from Asian cities

(9) **Delinom R.M.** et al.: Degradation of subsurface environment in Jakarta area

(10) **Chung-Ho Wang** et al.: Subsurface environmental changes in Taipei, Taiwan

(11) **Yamano M.** et al: Reconstruction of the thermal environment evolution in urban areas from underground temperature distribution.

(12) **Ichinose T.** et al: Comparison of Surface Temperature Trends in Asian large cities.

(13) **Taniguchi M.** et al.: Human impacts on urban subsurface environments in Asia

(14) **Burnett, WC.** et al.: Groundwater discharge into Klong in Bangkok

(15) **Umezawa Y.** et al.: The history and fate of nitrate contamination in groundwater at developing Asian-Mega cities, estimated by nitrate ^{15}N and ^{18}O values

(16) **Hosono T.** et al. Groundwater contamination in Soeul, Korea

(17) **Hunang S.** et al: Penetration of human induced warming in the continental landmasses

(18) Kim G. et al. Subsurface environmental changes due to human activities in Seoul, Korea.

(5) Int. Symp. + 国際WS (地球研P) インドネシア・バリ (Ramada)

- International Symposium

12月4・5日

- Field excursion

12月6日

- 国際ワークショップ (地球研・地下プロ第2回
国際WS)

12月7・8日

International Symposiumについて

発表エントリー(地球研でとりまとめて、Robertに連絡)へのご協力をお願いします。
詳細はWebsiteで <http://www.geotek.lipi.go.id/isws07/>

- 基本的には、後半のWorkshopの参加者の参加をイメージしている。
- ただし、発表者は各班1人 + (国外メンバー?)で10人程度を予定。
- 発表内容は、地球研プロジェクト内容に限ったものでなくても良いが、アジアにおける水環境問題に関連しているものが望ましい。
- 当日配布のProceedingsを作成予定らしい。ただし、配布先は限られているので、内容は、後半のWorkshopで作成するProceedingsの内容と重複する部分があっても構わない。
- 参加者はインドネシアからの国内参加者を中心に150人程度(地球研関係者25名程度を含む)を想定しているが、アクティブな人は50名くらいか。

国際Workshopについて(1)

- 参加予定者 (2007年5月現在)

地球研: 谷口(真), 遠藤、梅澤、石飛、小堀

社会経済: 金子, Karen Ann Jago-on

都市地理: 吉越、一之瀬

水: 嶋田、山中

物質: 小野寺、細野

熱: 山野, Fajar Lubis

重力: 福田、西島

国外: R. Delinom, C.H. Wang, F. Siringan, S. Huang,
W. Burnett

(未定: G. Wattayakorn, S. Buapeng or O.Lorphensri)

国際Workshopについて(2)

- 12月3日現地入り、4-5日がInt.Symp.、6日が巡検、7-7日が会議
- 参加費 : 350 US\$ (Proceedings, 会議4日間の昼食、2回のDinner Party, Field Tripを含む)
- ホテル : 会場のRamada Bintang HotelでRobertが部屋を40ほど押さえているが、家族連れの場合、また、ツインでシェアを利用したい場合は、事前に連絡(10月末日までに、梅沢まで)

国際Workshopについて(3)

- 各都市での我々のデータと解析結果、今後の方針などについて、各国のカウンターパートから最大限の有益なコメントを引き出したい。そのため、会議前に、会議後に出版予定のProceedingsの要旨、および、会議で使用するPPTファイル(英語での表記の解説Noteがついたもの = 熊本国内会議pptを利用)をメールにて配布する予定でいる。
- **会議後に出版するProceedingsは、2月末の中間評価にて提出するものであるため、1月中旬の原稿提出は厳守とする。**

Time table

Jan. 15, 2008	Deadline of paper submitting
Jan. 31, 2008	Deadline of paper editing
Feb. 1, 2008	Deliver to the printing company
Feb. 20, 2008	Distribution

国際Workshopについて(4)

初日(6日)と二日目(7日)の議事進行のイメージ

- 1st day (発表中心)

- プロジェクトリーダーからの概況発表
- 各班から2人ずつの発表(片方が大枠、他方が詳細な分析結果)
- まとめていく方向性の発表(GISや水循環シミュレーション, DPSIRなど)
- サブトピックの発表(国民性や宗教がもたらす地下水への感覚、治水政策への影響)

- 2nd day (議論中心)

- 各地域毎に分けての議論(問題点の洗い出し、残り期間の展開)
- 全体の統合方針、成果発表の方向性
- サブトピックに関する意見を募る

(6) HydroChange 2008について

発表エントリー & 論文査読へのご協力をお願いします。
詳細はWebsiteで http://www.chikyu.ac.jp/HC_2008

Session 3: 涵養域における水管理政策と環境アセスメント

遠藤(都市地理班?)

Session 6: 地下水と表層水の相互作用

山中(水班)

Session 7: 水収支、水循環の解明のためのリモセン技術の応用

福田(重力班)

Session 8: 地下水と植物生態系との相互作用

梅沢(物質班)

Session 9: 社会経済分析と脆弱な水資源のモニタリング

Karen(社会経済班)

Session 10: 100年間の地上・地下環境における人為影響の復元

谷口(智)・山下(都市地理班)/ 宮越(熱班)

Session 11: 陸域－海域の相互作用

谷口(真)・Bill Burnett



提出原稿や発表などの予定



(7) 今年度の現地調査の調整

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	その他
社会経済班		B											
都市地理班					S							TP	随時 T, O
							S. TP, M, B, J (各2回, 別途予算)						
水班					B	J			T				
重力班						J						B	
物質班			M	TP						J		B	
熱班			TP		B			J					随時 T

Legend: **T**: Tokyo, **O**: Osaka, **S**: Seoul, **TP**: Taipei, **M**: Manila, **B**: Bangkok, **J**: Jakarta

(8) 地球研所内報告会・中間評価

- 12月中旬

地球研所内報告会：研究プロジェクトの成果報告会、プロジェクトメンバーの参加期待！

- 2月下旬

中間評価！（外部評価委員による評価）

（直前に班長会議）

(9) その他(1)

- Newsletter: 現在Vol3まで刊行
- HP: 各班の調査・会議報告などをメンバー頁に随時掲載;
出張報告書、全体に関する書類、資料、発表ファイル、各班のデータリスト
- メンバー出張予定: 他の班との連携のため
- 予算執行: 事務局への連絡時には必ず班長にCC、納入時に写真を事務局へ送付。

その他(2)

(現在、or Workshopに向けての検討・周知事項)

- 招聘外国人研究員の枠が空いているので積極的な利用を！
- データの受け渡しのルールとして、グループ内の個人が管理しているデータであっても、SGリーダーを通す or SGリーダーにCcをする。
- 12月のWorkshopでは、次年度以降の調査日程など、顔を合わせた機会を利用し、話しておくのが良い。
- 国外カウンターパートとの円滑な連携に向けての方策
 - ・ 年度毎に各都市でのサマリーレポートを作成？
 - ・ 調査に行った時に、1日はプロジェクト全体に関する発表などの交流に費やす？
- プロジェクトグッズ(Tシャツやバッグなど)の制作は？